

よるい
甲を着た古墳人だより



公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団

1500年の時を超え姿をあらわした甲を着た古墳人は、土層ごと取り上げて室内に運び入れ、詳細な調査が進められています。この詳細調査の結果を3月3日(日)から8日(金)の6日間にわたって公開し、8,300人におよぶ方に見学していただきました。この様子は当事業団のホームページでご覧いただけます。

詳細調査が進むと新たな発見がある一方で、甲を着た古墳人の出土した瞬間の状態は失われていきます。そこで発見された当時の貴重な姿を残すためにレプリカを作成しました。このレプリカは、三次元計測という最新の技術によって得られたデータから製作したものです。今回は、このレプリカプロジェクトについてレポートしましょう。



甲を着た古墳人のレプリカ
このレプリカは、最新の技術を駆使して製作したものです。世紀の大発見の瞬間を伝えるに十分な迫力をもっています。

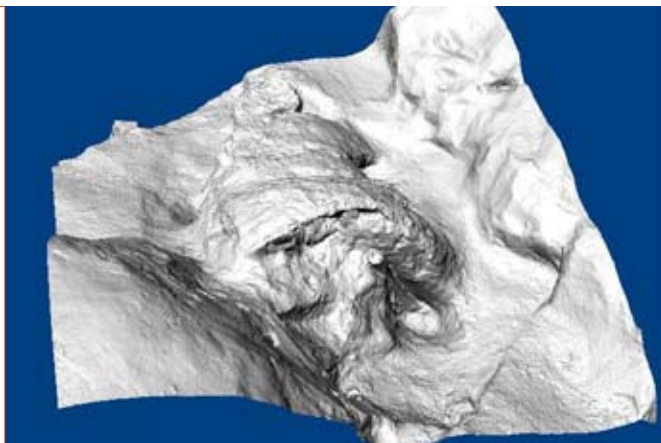
■ 三次元計測で古墳人を記録する

小型の計測器を使い、甲を着た古墳人を連続的に計測していきます。この三次元計測データをもとに、三次元プリンタで立体の造形を削り出すことができます。



■これが三次元計測データだ

三次元計測によって得られたデータを表示したものです。このデータは様々な角度から観察することができるだけでなく、平面図などの作成もできます。



■三次元プリンタによる造形とは

三次元プリンタには、粉末を吹き付けて造形するものと、素材を削り出して造形するものがあります。甲を着た古墳人のレプリカでは、この両方の技術を使い製作しています。



■彩色により完成

写真をもとにして、アクリル絵具で彩色しています。微妙な色彩を再現するのは高い技術と経験を必要とするものです。

最新技術によって、発見時の姿が見事によみがえることになりました。



当事業団ホームページをご覧ください。 <http://www.gunmaibun.org/>

